

〔調査レポート〕

若年層の倫理 2022

——コロナと社会と「私」——

海 野 裕

第1章. 倫理意識調査の概要と経緯

倫理意識の数量化とは何か

日本人の倫理意識を測定し数量化しようという試みは2005年から始まった。人間の意識は通常明確な形を持たないため、それを観察可能な状態に取り出すこと（オブジェクト化）が必要である。オブジェクト化する方法で最も普遍的なのは「数量化」を行うことである。つまり人間の意識を「数値」として取り出すのである。数値は動かし難い事実を示す客観的な指標となると言われている。セオドア・M・ポーター著『数値と客観性』によると数値が単体で明確な事実を表すというほど単純な問題ではなく、その数値がどのような主体により、どのような目的で、どのような方法で創出あるいは算出されているかが重要となる。

倫理意識の数量化を行う主体は「一般社団法人倫理研究所」である。倫理研究所の定款には次のようにその存在目的が記されている。「倫理の研究ならびに実践・普及により、生活の改善、道義の昂揚、文化の発展を図り、もって民族の繁栄と人類の平和に資する」と。倫理を専門的に研究する団体が主体として行う「数量化」には大きな意味がある。また「数量化」を行うことを通じて倫理の専門的な研究は成立するとも言える。つまり専門的な知見（ローカルナレッジ）であればあるほど、そのナレッジを「標準化」し、他の専門領域のナ

(2)

レッジと架橋可能なものにする必要があるからである。

また数量化の方法も重要である。本来、意識は個々人に宿る曖昧模糊としたものである。それを数量化するためには2つのプロセスが必要である。一つは曖昧模糊とした意識に一定の方向で「刺激」を与え、それへの「反応」として意識のありようを取り出すこと。もう一つは同様の「刺激」と「反応」のケースを複数集め、その全体としての傾向を数量化することである。先述の『数値と客観性』にも記述されている通り、「数量化」とは「没個人化」という性格を持っている。日本人の倫理意識を把握しようと考えれば、日本人一人一人つまり個々の意識ではなく、その総体としての意識にフォーカスしていく必要がある。ここで重要となるのが統計学的な視点である。数量化を図る際に極めて重要なのはその「数値」がその集団の特性を示すかどうか、換言すれば「代表性」を持つかどうかである。前述の通り、数量化とは個々ではなく全体としての傾向を示すわけであるが、全体の傾向を示しているという数学的な根拠を数量化主体（調査主体）は提示する責任がある。

これはサンプル数の問題に帰結する。例えば日本人全体の倫理意識をテーマにする場合、測定するサンプルの数によって「数値」の確からしさは変動する。これを標本誤差という。2023年の日本国の総人口は2023年4月1日現在で1億2447万人である。全体の傾向を正確に掴む最善の方法はこの全員の意識を測定することであるが現実には不可能である。よってより少ないサンプルをここから抽出し、全体の傾向を掴むことになる。サンプルは多ければ多いほどよい。調査費用とデータの正確性を天秤にかけて着地点を探るのである。数値の誤差（標本誤差）はサンプルの多寡に左右される。標本誤差は以下のように算出される。

【図表 1】

サンプル数	サンプル数 n	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	普及率 p	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%
	サンプリング誤差	4.4%	6.0%	7.1%	8.0%	8.7%	9.2%	9.5%	9.8%	9.9%	1.0%
サンプル数	サンプル数 n	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
200	普及率 p	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%
	サンプリング誤差	3.1%	4.2%	5.0%	5.7%	6.1%	6.5%	6.7%	6.9%	7.0%	7.1%
サンプル数	サンプル数 n	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300
300	普及率 p	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%
	サンプリング誤差	2.5%	3.5%	4.1%	4.6%	5.0%	5.3%	5.5%	5.7%	5.7%	5.8%
サンプル数	サンプル数 n	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400
400	普及率 p	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%
	サンプリング誤差	2.2%	3.0%	3.6%	4.0%	4.3%	4.6%	4.8%	4.9%	5.0%	5.0%
サンプル数	サンプル数 n	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
500	普及率 p	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%
	サンプリング誤差	1.9%	2.7%	3.2%	3.6%	3.9%	4.1%	4.3%	4.4%	4.4%	4.5%
サンプル数	サンプル数 n	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800
800	普及率 p	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%
	サンプリング誤差	1.5%	2.1%	2.5%	2.8%	3.1%	3.2%	3.4%	3.5%	3.5%	3.5%
サンプル数	サンプル数 n	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
1,000	普及率 p	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%
	サンプリング誤差	1.4%	1.9%	2.3%	2.5%	2.7%	2.9%	3.0%	3.1%	3.1%	3.2%
サンプル数	サンプル数 n	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
2,000	普及率 p	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%
	サンプリング誤差	1.0%	1.3%	1.6%	1.8%	1.9%	2.0%	2.1%	2.2%	2.2%	2.2%

【図表 1】は一般的な製品等の普及率（p）を調査した場合のサンプル（標本）数による誤差（サンプリング誤差）の一覧表である。例えばある製品が普及率25%という調査結果だとした場合、2000サンプルの調査の誤差は±1.9%、これが100サンプルだと8.7%ということを示している。つまり、2000サンプルの調査における普及率25%という数字は23.1%から26.9%の範囲に収まる一方で、100サンプルの調査におけるそれは16.3%から33.7%の範囲ということになる。ただ普及率25%という数値を扱うとした場合のサンプル数の重要性が理解できたのではないだろうか。

倫理意識定点調査の調査概要

2005年から始まり、2010年から毎年定点的に実施している倫理研究所の「倫理意識調査」はこうした観点を踏まえた大サンプルの定量調査である。調査概要を以下に記す。

(4)

■ 調査方法

- ▶ インターネットを介した定量調査
- ▶ 調査会社が保有するパネル (対象者群) へのメールによるサンプル抽出

■ 調査企画

- ▶ 筆者 (一般社団法人倫理研究所 研究フェロー 海野裕)

■ 実査機関

- ▶ 株式会社インテージリサーチ

■ 調査対象エリア

- ▶ 全国

■ 調査対象

- ▶ 全国の男女15歳～69歳
- ▶ 対象除外業種はマスコミ、広告、新聞、放送業
- ▶ 性別 (2) ×年代 (6) による12層を均等にサンプリング
- ▶ 政令指定都市・政令指定都市外を均等割り付け

■ 想定有効回答数

- ▶ 総計 1,200名
 - ◇ 男性 600名
 - ◇ 女性 600名

■ 調査内容

- ◇ 倫理25 (25の倫理コンセプト) の共感度評価
- ◇ 倫理25 (25の倫理コンセプト) の社会的重要性評価
- ◇ 倫理25 (25の倫理コンセプト) の実践度評価
- ◇ 日本人らしさ45への共感度評価等
- ◇ その他

■ 調査期間

- ▶ 2012年以降、毎年2月末から3月初週に実施

上記の通り、この調査は標本誤差を抑えることで日本人全体の倫理意識を可能な限り正確に抽出し「数量化」することを目指した大規模な調査となっている。また調査の方法は「倫理25 (25の倫理コンセプト)」を提示してそれへの共感性等を取得する「コンセプトチェック」型である。「倫理25 (25の倫理コンセプト)」の設定にあたっては、古今東西の道德、徳目、宗教的倫理観、生きる知恵等を広範にリサーチし、それらを分類および編集することで25のコンセプトに取りまとめた。具体的なコンセプトは以下に記す。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 01 父母を敬うこと | 13 物を大切にすること |
| 02 祖先や神仏を敬うこと | 14 困難を喜ぶこと |
| 03 妻や夫を尊重すること | 15 嘘をつかないこと |
| 04 兄弟姉妹は仲良くすること | 16 決断すべきときに決断すること |
| 05 目上の者を尊敬すること | 17 実行すべきときに実行すること |
| 06 礼儀正しくあること | 18 自分を信じること |
| 07 冷静であること | 19 希望を持つこと |
| 08 思いやりを持つこと | 20 勇気を持つこと |
| 09 勤勉であること | 21 節制すること |
| 10 和を重んじること | 22 広く多く学ぶこと |
| 11 他人を信じること | 23 主体性を持つこと |
| 12 他者を尊重すること | 24 他を羨まないこと |
| | 25 命を尊重すること |

尚、2021年以降の調査では倫理意識のカバー領域を広げる目的でコンセプトのブラッシュアップおよび追加を行い「倫理33」となっている。追加されたのは以下の通り。

(6)

- | | |
|------------------|------------------|
| 26 祖先を大切にすること | 30 決まりや約束事を守ること |
| 27 神仏を大切にすること | 31 公正さを大切にすること |
| 28 歴史や伝統を大切にすること | 32 自由を大切にすること |
| 29 年少者を尊重すること | 33 自然への畏敬の念を持つこと |

「倫理意識」における年代効果は強固である

倫理意識調査は2010年から定点調査となり、今年2023年の3月を以て14時点の調査データを保有している。日本人の倫理意識の定点観測データはおそらく他に類を見ないものと思う。調査結果は多くのことを示唆しているが、その中でも重要と思われる発見は「倫理意識には年代効果」がある、という事実であった。

【図表2】60代において有効な倫理コンセプト（2005年調査から）

ポジション	コンセプト名	
1.有効な道德倫理	1.父母を敬うこと	
1.有効な道德倫理	2.祖先や神仏を大切にすること	
1.有効な道德倫理	3.妻や夫を尊重すること	
1.有効な道德倫理	4.兄弟姉妹は仲良くすること	
1.有効な道德倫理	5.目上の者を尊敬すること	
1.有効な道德倫理	6.礼儀正しくあること	
1.有効な道德倫理	7.冷静であること	
1.有効な道德倫理	8.思いやりを持つ	
1.有効な道德倫理	9.勤勉であること	
1.有効な道德倫理	10.和を重んじること	
1.有効な道德倫理	12.他者を尊重すること	
1.有効な道德倫理	13.物を大切にすること	
1.有効な道德倫理	15.嘘をつかないこと	
1.有効な道德倫理	16.決断すべきときに決断すること	
1.有効な道德倫理	17.実行すべきときに実行すること	
1.有効な道德倫理	18.自分を信じること	
1.有効な道德倫理	19.希望を持つこと	
1.有効な道德倫理	20.勇気を持つこと	
1.有効な道德倫理	21.節制をすること	
1.有効な道德倫理	22.広く多く学ぶこと	
1.有効な道德倫理	23.主体性を持つこと	
1.有効な道德倫理	24.他を羨まないこと	
1.有効な道德倫理	25.命を尊重すること	
3.過去の遺物	11.他人を信じること	
3.過去の遺物	14.困難を喜ぶこと	
ポジション	項目数	%
1.有効な道德倫理	23項目	92.0
2.力を失いつつある倫理・道德	0項目	0.0
3.過去の遺物	2項目	8.0
4.新たな価値観の兆し	0項目	0.0

【図表3】 10代において有効な倫理コンセプト (2005年調査から)

ポジション	コンセプト名	
1.有効な道徳倫理	1.父母を敬うこと	
1.有効な道徳倫理	6.礼儀正しくあること	
1.有効な道徳倫理	8.思いやりを持つ	
1.有効な道徳倫理	12.他者を尊重すること	
1.有効な道徳倫理	13.物を大切にすること	
1.有効な道徳倫理	20.勇気を持つこと	
1.有効な道徳倫理	22.広く多く学ぶこと	
1.有効な道徳倫理	25.命を尊重すること	
2.力を失いつつある倫理・道徳	7.冷静であること	
2.力を失いつつある倫理・道徳	16.決断すべきときに決断すること	
2.力を失いつつある倫理・道徳	19.希望を持つこと	
3.過去の遺物	2.祖先や神仏を大切にすること	
3.過去の遺物	3.妻や夫を尊重すること	
3.過去の遺物	4.兄弟姉妹は仲良くすること	
3.過去の遺物	5.目上の者を尊敬すること	
3.過去の遺物	9.勤勉であること	
3.過去の遺物	10.和を重んじること	
3.過去の遺物	11.他人を信じること	
3.過去の遺物	14.困難を喜ぶこと	
3.過去の遺物	15.嘘をつかないこと	
3.過去の遺物	17.実行すべきときに実行すること	
3.過去の遺物	18.自分を信じること	
3.過去の遺物	21.節制をすること	
3.過去の遺物	23.主体性を持つこと	
3.過去の遺物	24.他を羨まないこと	
ポジション	項目数	%
1.有効な道徳倫理	8項目	32.0
2.力を失いつつある倫理・道徳	3項目	12.0
3.過去の遺物	14項目	56.0
4.新たな価値観の兆し	0項目	0.0

【図表2】及び【図表3】は「倫理25」のうち、どの倫理コンセプトが「有効な倫理」であったかを示すものである。「有効な倫理」とは共感度（個人的に共感できるか／5段階）と重要度（社会的に重要だと思うか／5段階）の両方がポジティブな倫理コンセプトである。これを見ると、60代では「倫理25」のうち92%が「有効な倫理」であるが、10代では32%にとどまることがわかる。同様の数値を年代ごとに追っていくと、

- ・ 60代 92%
- ・ 50代 68%
- ・ 40代 52%
- ・ 30代 28%
- ・ 20代 36%
- ・ 10代 32%

となり、年代が高いほど「有効な倫理」が多い傾向が理解できるかと思う。2005

(8)

年の第1回調査からこの傾向は顕著で、2020年までその傾向は大きく変わらなかった。【図表4】は2020年調査における「倫理33」への共感度の性年代別の数値である。男性、女性とも40代以上で数値が高くなっていることが読み取れるだろう。また女性と男性の比較では男性の共感度が有意に低い。これは男性の方が多くの場合、調査の質問文に対してやや批判的な、言わば「斜に構えた」態度で臨むことが背景にあると思われるが、本レポートの主題とは外れるため言及は避ける。

【図表4】

表頭：* Q1 以下にさまざまな価値観や倫理観などが列記されています。それぞれの項目について、あなたは個人的にどの程度「共感できる」と思いますか。

n	思いやりをもつこと	礼儀正しくあること	物を大切にすること	冷静であること	命を尊重すること	決まりや約束事を守ること	父母を敬うこと	実行すべきときに実行すること	公正さを大切にする	決断すべきときに決断すること	自由を大切にすること	勇気を持つこと	妻や夫を尊重すること	兄弟姉妹は仲良くすること	自分を値じること	希望を持つこと	目上の者を尊敬すること	勤怠であること	自然への畏敬の念を持つこと	嘘をつかないこと	主体性を持つこと	広く多く学ぶこと	和（調和）を重んじること	祖先を大切にすること	節制をすること	祖先や神仏を大切にすること	歴史や伝統を大切にすること	神仏を大切にすること	年少者を尊重すること	他者をへうらやまないこと	他人を値じること	困難を善ぶこと	あてはまるものはない		
TOTAL	1291	91.0	89.1	87.1	86.1	84.2	83.4	83.0	82.3	81.8	81.6	81.0	80.4	79.0	77.8	77.5	77.3	76.5	76.1	75.2	74.3	74.0	73.7	73.6	71.8	71.4	71.3	71.3	69.6	63.1	61.4	56.5	49.6	25.9	2.8
男性10代	105	78.1	80.0	78.1	80.0	78.1	76.2	73.3	80.0	74.3	78.1	83.8	67.6	69.5	70.5	74.3	72.4	69.5	68.6	67.6	61.0	76.2	73.3	66.7	65.7	65.7	61.0	72.4	65.7	61.9	64.8	46.7	32.9	39.0	5.7
男性20代	105	80.0	77.1	79.2	81.0	75.2	73.3	77.1	75.2	75.2	73.3	74.3	73.3	72.4	65.7	70.5	70.5	69.5	75.2	61.0	59.0	71.4	69.5	62.9	64.8	64.8	62.9	71.4	62.9	57.1	61.0	49.5	50.5	34.1	5.7
男性30代	104	80.8	74.0	74.0	77.9	67.3	64.4	74.0	69.2	64.4	70.2	64.4	67.3	65.4	64.4	69.2	60.6	63.5	61.5	60.6	65.4	55.8	64.4	54.8	50.0	55.8	56.7	60.6	50.0	42.3	49.0	46.2	45.2	30.8	5.8
男性40代	110	88.2	83.6	81.8	86.4	80.9	80.0	75.5	77.3	73.6	76.4	74.5	81.8	74.5	68.2	73.6	70.9	65.5	70.0	70.9	74.5	72.7	64.5	59.1	67.3	63.6	60.9	59.1	53.6	55.5	53.6	44.5	23.6	2.7	
男性50代	111	95.5	96.4	93.7	91.9	92.8	87.4	82.8	91.0	94.6	91.0	86.5	83.8	81.1	85.6	82.0	82.0	83.8	81.1	81.1	86.5	79.3	79.3	78.4	79.3	82.0	79.3	79.3	78.4	63.1	65.8	62.2	53.2	27.9	0.9
男性60歳以上	108	96.3	94.4	89.8	90.7	90.7	83.5	89.8	91.7	94.4	90.7	86.1	91.7	82.4	88.0	86.1	86.1	85.2	85.2	80.6	84.3	87.0	79.6	83.3	82.4	81.5	81.5	67.6	81.5	70.4	57.4	63.9	44.4	16.7	0.0
女性10代	110	92.7	95.5	90.0	88.2	85.5	85.5	80.9	85.5	82.7	78.2	89.1	76.4	82.7	81.8	76.4	80.0	86.4	78.2	80.0	68.2	71.8	73.6	80.0	70.9	70.9	65.5	80.0	70.9	58.2	61.8	60.9	55.5	29.1	2.7
女性20代	104	90.4	85.6	84.6	80.6	80.8	80.8	73.1	75.0	72.1	76.9	79.8	81.7	74.0	71.2	69.2	63.5	61.5	65.4	62.9	72.1	63.5	69.2	63.5	59.6	63.5	61.5	68.3	58.7	53.8	61.5	48.1	35.6	19.2	1.9
女性30代	110	95.5	90.9	86.4	80.9	83.6	82.7	87.3	79.1	76.4	79.1	77.3	87.3	80.9	80.9	72.7	80.9	80.9	69.1	76.4	74.5	70.0	67.3	72.7	76.4	65.5	73.6	70.9	74.5	63.6	64.5	50.0	44.5	24.5	2.7
女性40代	110	98.2	95.5	91.8	92.7	90.9	90.9	89.1	86.4	85.5	89.1	85.5	77.3	87.3	86.4	80.0	85.5	80.0	83.6	84.5	79.1	78.2	73.6	82.7	81.8	72.7	78.2	75.5	72.7	75.1	64.5	66.4	53.6	23.6	0.9
女性50代	110	95.5	94.5	91.8	90.9	89.1	89.1	85.5	82.7	91.8	83.6	80.9	85.5	85.5	78.2	83.6	81.8	80.0	83.6	84.5	76.4	72.7	78.2	82.7	81.8	82.7	81.8	74.5	78.2	76.4	58.2	70.0	53.6	23.6	1.8
女性60歳以上	104	98.2	98.2	95.2	91.3	94.2	96.2	97.1	94.2	95.2	92.3	89.4	90.4	91.3	92.3	91.3	92.3	91.3	90.4	91.3	93.3	86.5	83.7	89.4	88.8	83.7	89.4	73.1	80.8	76.0	73.1	60.8	51.0	14.4	0.0

ここまで見てきた通り、倫理意識調査から読み取れる最も大きな発見は「人間（日本人）は歳をとるほどに倫理的になっていく可能性が高い」あるいは「年齢が若いほど倫理的でない可能性が高い」ということだったのだ。

第2章. コロナ禍がもたらした変調

新型コロナという外的要因

こうした定点調査は単年の数値よりはむしろ時系列の分析にこそ意味がある。